

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

- (1) 函館駅前・大門地区の活性化に向けた公共施設整備について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については5月17日から18日の日程で柏市及び大和市に対して行政調査を行ってきた。各自治体及び施設の取組は参考となり、大変有意義な調査であったと考えている。
- ・ なお、本件にかかわる行政調査報告書については後日配付させていただくが、取り急ぎ各委員には、調査内容の概要を取りまとめた資料を配付させていただいたところである。
- ・ 本日は、先般の委員会で調査のポイントとして確認した公共施設の整備について「人の流れを生み、集客ができる施設」「様々な人が利用し、交流が促進される施設」の2点を中心に今後の函館駅前・大門地区の活性化に向けた公共施設整備について、各委員から今回の行政調査を踏まえた御意見やお考えなどをお伺いしたいと考えているがよろしいか。（異議なし）
- ・ 早速進めさせていただく。それでは、感想等あったら各委員から御発言願いたい。

○松宮 健治委員

- ・ 2つの施設を見て率直に思ったことは、やはり規模の大きさはシリウスの方が大きいのでインパクトがあったというのが正直な感想である。
- ・ ただ、シリウスの場合は図書館に特化して、そこにスターバックスも入って、駅にも近いという、いろんな好条件がそろって——大和市としてはいろいろ紆余曲折はあったが、あそこにあのような施設をつくって大きな効果を得たと思っていたので、かなり参考にはなった。ただ、函館市が図書館をあそこにとというのは、中央図書館もあるので機能的に全部移設するのは無理だろうと思う。しかし、何らかの図書館機能は、一般市民が入りやすいという意味ではやはり入れた方がいいだろうと思う。
- ・ もう一つ、パレット柏だが、中に入ると、興味関心のある人にはすごくいい施設だが、函館の場合は、十字街にまちづくりセンターがあるので、あれはあれで函館市としては機能しているので——あのような機能が例えば函館駅前にあればかなりいいのだろうと思うが、似たようなものはなかなかつくりにくいだろうということで、パレット柏の意義も非常によく分かるが、ただ集客力からするとシリウスの方がはるかにあると感じた。僕も図書館は嫌いではないが、どこにでもあるような図書館とは言い難い図書館で、やはりよく考えられているところだと思ったので、何でもごちゃ混ぜは難しいと思うが、あれもこれもというよりは、本当に人が集まれるものをベースにして、あといくつかを入れていくしかないのかと思った。ただ、まだ何も建っていないし、まだ案の段階だが、いろんなこともあるので——感想である。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 大和市は人口が23万人で函館より少ないわけだが、本当に素晴らしいものだったと思った。かけている金額というか、総額で213億円——ホールにもお金をかけたり、設計代などいろんなことも全部含んでいるとはいうものの大変大きな金額をかけていると感じた。指定管理者制度をとっているが、指定管理者も大変大手の指定管理者がやっていて、とても函館では見つけられないと思った。はっきり言って大和市は図書館が中心だが、まさにシリウスが大和市の中では一番の観光地というか、一番素晴らしい建物なので、たくさん人も集まるし大きな役割を果たすのだと思うが、函館市は別にそこが一番のというわけではなく、函館は観光都市で様々な観光施設があるわけで、そういう中では、私はとても——参考にならないとはもちろん言っていないが、大和市のようなものはとても無理であろうと思った。
- ・ もう一つの柏市だが、あちらは函館よりも多い人口43万人もいるという割には思ったほどではないというか、思ったよりそうでもないという印象もちょっとあり、確かに様々な人が利用するというところでは、市民交流センター、国際交流センター、男女共同参画センター、市民活動サポートコーナーとかいろんなものが入っていて、それはそれでいいというふうにも思ったが、そのとき質問した中でも、もともとあったものは市民ギャラリーと市民活動サポートコーナーだけで、市民交流センターとか国際交流センターは新たに作ったということで、今まで人口43万人で国際交流センターなどはなかったというのが、それはそれでちょっと驚きだった。男女共同参画センターに関しては市役所の中にあっただけのを大きくしたというので、そこは函館市も市役所の中に市民・男女共同参画課が入っている。函館は、先ほど松宮委員がおっしゃったようにまちづくりセンターが十字街にあって、市民活動とか市民交流のいろんな役割も果たしているので、今の函館市を考えた場合、何でもかんでもそこにというふうにはならないだろうと私も思うし、やはりそこそこの町の面積、かけられる予算——お金のことを考えて、首長さんというかそういう方の考え方も柏市は特に大きいというふう感じた。なので、今後、そこをしっかりと詰めていくことが函館市は大事というふうに思った。

○浜野 幸子委員

- ・ 我々は、人の流れを多くしたいということがまず大事であったが、調査した都市はあちらこちらにそれなりの建物があって、交通の便も含めて吟味されたようである。日本共産党函館市議団のアンケート結果によると、市は基本の考えがあるようだが市民が足踏みしているというような感じがした。せっかく駅前につくるのであれば、シリウスの説明でもあったが、初めは大にぎわいで、徐々に魅力が薄れて、利用者があちらこちらに戻っていくというのが最近多いので、やはり自治体とオーナーにしっかりした人がいなければ、駅前のにぎわいを取り戻すのはなかなか難しい——全然駄目ではないが、かなり神経を使わなければ、私たちが調査してきたまちなぎわいはどうなのかという疑問を抱いた。

○島 昌之委員

- ・ 柏市、大和市それぞれの施設が、その地域のにぎわいづくりや活性化につながっているということ実感できたが、あれをそっくり函館に置き換えて持ち込めるかとなるとまた別問題である。今回、私は大和市の所見を書かせていただいたが、大和市の場合、面積が函館の4%しかない中で、人口は——斉藤委員が先ほど23万人とおっしゃったが今年の3月時点で24万1,000人で、現在、少しだが人

口が増加している。なので、その辺りの条件が地方都市である函館市とは、比べるときに難しいものがあるという気もするが、それでも取り入れて、やればいいかなと思うサジェスションみたいなものも結構あったと思う。

- ・ 大和市の場合、図書館城下町ということで、シリウスを入れて市内に5館ある。それぞれがそれぞれの機能を持って図書館城下町というくらいのまちづくりをしている。その原点は何か調べたら、健康都市大和——人の健康、まちの健康、社会の健康ということで、健康をキーワードにして図書館にまちづくりのものを持っていった。ただ大和市は人口が微増しているが、単身世帯の割合が全国平均よりも上回って40.7%である。指定管理者のやまとみらいの片山統括責任者の言ったことで非常に印象的だったのが、シリウスを外出機会を増やすきっかけにしてもらいたい、こんな話をされていて、単身者も多いが、多くの市民の居場所になっていて、リピーターも多い。そのために何回来て飽きないような取組をしているということである。今後、函館駅前に、図書館機能を含めた新しい公共施設の整備となったときに、誰もが訪れたい、函館市民だけでなく——大和市の場合は横浜市や隣接している東京都町田市などたくさんあって、そういうところから利用しているから3年間で来館者数1,000万人となっていると思うので、近隣町村や観光客も含めた新しい居場所としての公共施設が望ましいのではないかということを感じた。

○紺谷 克孝委員

- ・ 今、島委員から大和市の話があったが、柏市も人口が増えている。それで、2か所とも施設としては、大変成功していて、立派にやっていて、活性化しているということがよく分かったが、人口が増加している都市で、しかも2か所とも交通の要衝という感じで、例えば小田急線と相鉄線が交差している大和市は、市民だけでなく、周りの東京、横浜近辺の通勤などで、時間があるから、あのような施設があるから大和市で降りてみようとする人も対象にしていると思う。だから、市民だけではなく、近隣、さらには東京、横浜——神奈川県全体を視野に置いた内容になっていると思う。人はいるので、その人に寄ってもらうようにしているという感じで、函館市の場合は駅前といえどもあまり交通の要衝でもないし、人もあまり出てこないということになると、通りがかりの人が寄るというより、自宅にいる人を引っ張り出すというような形になると思う。ただ、観光客が多いということで、大和市が周辺都市の人たちを引きつけるように、函館市はある程度観光客も対象にしないといけないと思う。
- ・ 図書館についても、大和市は、図書館城下町というふうに言われていて、確かに図書施策については頑張っておられるが、函館市の場合は、やはり郷土資料などがあり、いろいろ歴史的な文書がたくさんある。多分、大和市はあんまりないと思うので、実務的な図書で役に立つ、見て楽しいというのが中心の図書館になっている。図書館の性格も大分違うと思う。だから、函館らしい図書館の活用仕方ということが駅前でも求められてきているということで、非常に参考にはなったが、同様の形というのはなかなか大変である。少し人口が減少していて、あまり人が出てこないというような都市の苦悩に満ちたそういう施設を調査してみたいという気持ちもある。

○工藤 恵美委員

- ・ 羨ましい点もあるが、函館にそっくりそのままはまらないだろうと思っていた。大和市は駅を利用したまちづくりをしていて、交通の要衝であるということは本当に羨ましい。地形的にも平らで、あ

まり坂がなく、自転車を利用する市民が多いということで、それによって駐車場の確保がいらないので羨ましいと思う。大都市に近いということもあり、発展的要素——伸び代が多いということで、大手企業の指定管理者が入ってくれるということはとても羨ましいことだと思っているが、共通して考えられることは、まちづくり——商店街の中心にはやはり公共施設が必要だということが分かった。公共施設があることによって、企業や店舗が張りついてくることが分かるので、その辺、函館においても、新しい商業施設の中には公共施設を——何がいいのかわからないが、図書にしても、函館は中央図書館の利用者が多いので、それ以上のものをつくる必要があるかどうかも含めて、しっかり皆で何がいいのか考えていきたいと思った。

○工藤 篤委員

- ・ 大和市には感心したが、全く理念が違うので、函館市の方向性には全く参考にはならないのではないかと考えた。
- ・ 柏市は人口規模だけではなく、駅を通じた通勤客とかも含めて、函館市とは比較にならないし、それを参考にして、駅前に公共施設云々ということにはならないと思った。施設そのものは賃貸なので、今、函館市が考えているものはちょっと方向性が違うと思った。
- ・ それで、紺谷委員が苦しんでるところのそういう事業や企画を見たかったとおっしゃっていたが、そのことは私も事前にお話をさせてもらっている。そして、函館市の特性として観光客を相手というふうになったときに、例えば図書館が観光客を呼び込むのかどうかということを考えたとき、それはあり得ないだろうと思う。観光客を呼び込むために、また同時に市民にも来てもらうというときに、中心市街地活性化事業をやってきたときに、いろいろ議論がなされたが、あれから数年経った。この総括をきちんとし、その上に立って、駅前をどうするのかという議論をしていかなければ、同じ轍を踏むのではないかと危惧をしている。
- ・ 今回の棒二森屋跡地について、あそこにまちなか水族館はどうかというふうな提案をして、それを一蹴されたと、提案した人からお聞きしている。なので、結局あそこの公共施設について、周囲にあるものを寄せ集めて、集約をするということは、どっちの都合なのかということをもう少しきちんと見極めながら進めていかなければ失敗するのではないかと考えた。

○山口 勝彦委員

- ・ 人の行き来のベースがきちんとしていないとなかなか進まないのが実態だと思う。今回の2か所についてはやはり全く環境が違う。その中で参考になる部分、ならない部分もあるが、駅前の活性化に向けた公共施設整備ということで調査を行って来て、公共施設があった方がいいという思いの方もおられるが、やはりそれは市民が判断するのであって、そこにいろんな支援をして、いろんな企業が集まるようなにぎやかなベース——課題などたくさんあると思うが、そういう中で集合して、市民がそこに行く理由を後押しできるような体制をつくることによって——駅の問題やアクセスの問題から考えると、大和市、柏市は函館市とは全く対照にならない。しかし、函館市をよくする——駅前のにぎやかさを取り戻すということを考えたときに、公共施設の整備をするということはかなり難しいものもあると思うが、支援する側も相応の気持ちで対応しないと、市民のためにやるのだから——函館市内で施設を移設した場合に市民が極力喜んで施設を利用できるような環境になっているのか、また元のままで維持できないのかということ、地域の商店街にも反映させるとい

うことになる、先ほど島委員が言ったように、観光客はもちろん市外から来る人にも頼らなければならない中で、対応していくという力強い気持ちがないと——決して悪いとは言っていないが、当然やっていくことは必要だと思うし、いいことだと思うが、何とか前向きに、市民が喜んでにぎやかなまちを取り戻せばいいというふうに思っている。それが、何がいいかという部分は分からないが、そういう意味ではリードできる市がそれなりの支援をしながら、僕らも一生懸命学んでいったほうがいいと思う。函館では非常に厳しいという思いだが、得たものは熱意だとか——規模的なものは金銭的に違うので、そういうものを感じ取って、ここでできることを何とかやっていければ、市民は理解してくれるのではないかと——理解を求めるのがまず先決ではないかと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 一通りお聞きしたが、他の委員の発言を踏まえてさらに何か御発言あるか。（なし）
 - ・ 今後の調査の進め方について、これまでの調査や本日もいただいた御意見をもとに、今後の取組の方向性について取りまとめた案を、正副で作成させていただき、協議を行っていきたいと考えているが、よろしいか。（異議なし）
 - ・ その他、本件について、各委員から何か御発言はあるか。（なし）
 - ・ 本件については、今後の取組の方向性を調整するため、委員会の閉会中継続調査事件とすることによろしいか。（異議なし）
 - ・ ただいま決定した閉会中継続調査事件については、先ほどの理由をもって議長に申し出たいと思うが、これに御異議ないか。（異議なし）
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前11時39分散会